

「新世紀、いい時代にしましょう」

理事長 木村戦太郎

会員の皆様、明けましておめでとうございます。何はともあれ、新しい年と新しい世紀が始まりました。社会の難しい状況に変わりはありませんが、取りあえず気持ちを新たに、希望を持って前へ進みたいと思います。くれぐれも皆様のご協力とご支援をお願い致します。



今が時代の変革期であることは言う迄ありませんが、世紀の変わり目を過ぎその動きは少しづつ加速する気がします。昨年も様々な動きがあり、私の居ります筑波でも11月に「つくばサイエンスアカデミー（設立準備委員長：江崎玲於奈氏）」の設立総会があり、時の人白川秀樹氏の記念講演を始め「ヒトゲノム計画」「ナノテクノロジー」「IT」など興味深い講演が未来を伺わせました。国立大学・研究機関の独立行政法人化や省庁再編も始まり、1月6日付けでJIDの指導機関も経済産業省製造産業局デザイン政策チームに変わり、私事ですが、私の身分も文部科学教官に変わりました。

様々な領域で諸団体が変わるべき方向と方策を模索し続けています。JIDの周辺でも、関連学会や諸団体からの共同研究や連帯の呼掛けが多くなっています。衆知を集め、知恵を出し合わないといけないのです。現デザイン政策チームの呼掛けで昨年末に社団法人格を持つデザイン8団体(注)の理事長会議「第1回デザイン委員会」が開催されました。本年2月5日には第2回が行われます。我々は指導機関の問い掛けに答えなければなりません。同時にデザイン集団として現状をどう捉え何処に向かいたいのか？社会は我々に何を望んでいるのか自問しなければなりません。それなりの理由があって今デザイン8団体がありますが、外からどう見えているのでしょうか？今後は継続的に話合う機会を持ち、力を一つにして社会に発信しようとしています。仕事は増えるばかりですが、昨今の編集され氾濫するメディア情報を正しく読み説くのは困難であり、今は情報の渦中に身を置いて、方向を体感すべき時だと思います。ご多忙とは思いますが、JIDの様々な活動にぜひご参加下さい。汗はかくでしょうがきっとJIDを、そして参加された貴方を、汗の分だけ活性化してくれる筈です。

(注：社団法人デザイン8団体の正式名称及び略称、(社)は省略)
日本インテリアデザイナー協会：JID、日本インダストリアルデザイナー協会：JIDA、日本クラフトデザイン協会：JCDA、日本パッケージデザイン協会：JPDA、日本グラフィックデザイナー協会：JAGDA、日本ジュエリーデザイナー協会：JJDA、日本ディスプレイデザイン協会：DDA、日本サインデザイン協会：SDA)

JID NEWS

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報

2001

No.214

2・3

「目次」

● 新世紀に向けて	1
● 2000年JID賞について	1
● 総合的学習の時間を活用して	4
● 2000ニューイヤーズパーティー	4
● 国際交流委員会報告	4
● 五百部氏が「現代の名工」に	5
● IFFI 2000準備委員会メンバー募集	5
● APSDA総会BALI及び国際会議報告	5
● 本部組織委員会より	7
● 名称変更と異動のお知らせ	7
● 平成12年度第3回理事会報告	8
● 平成12年度第4回理事会報告	10
● JID NEWS 関東	13
● JID NEWS 中部	14
● JID NEWS 関西	16
● JID NEWS 九州	17
● 新入会員の紹介	18

2000年JID賞について

選考委員会委員長 大野 美代子

1. 2000年JID賞の決定

[2000年JID賞の選考経緯]

JID賞は、インテリアスペース、インテリアプロダクト、インテリア研究・著作・業績の各部門を対象に毎年優れた作品を選考してきたが、昨年から学生賞部門を新設した。ここ数年の景気の低迷に応募点数が減少するのではないかと懸念されたが、蓋を開けてみれば、昨年に及ばなかったものの、65点の応募作品があった。その

内訳は、インテリアスペース部門が43点、インテリアプロダクト部門が9点、インテリア研究・著作・業績部門が3点、学生賞部門が10点である。

第1次審査は2000年9月より2回にわたって行い、応募資料による審査であった。第2次審査は、10月中旬から11月下旬にかけて、第1次審査を通過したインテリアスペース部門賞の候補となった全作品及びインテリアプロダクト部門賞の候補について、それぞれ選考委員による現地・現物審査を行った。その上で、11月8日、ゲスト審査委員として勝尾岳彦（日経デザイン編集長）・小嶋一浩（シーラカンズアンドアソシエーツ）の2氏を迎え最終審査会を開き、長時間にわたるディスカッションと投票の後、インテリアスペース部門では部門賞4点、インテリアプロダクト部門では奨励賞2点、インテリア研究・著作・業績部門では部門賞1点、学生賞部門では部門賞2点の各賞を決定した。また、全部門を通しての最優秀作品に与えられる大賞については、残念ながら該当作品がないという判断であった。なおこれら9点の受賞中、日本インテリアデザイナー協会正会員による受賞は、井上氏と本澤氏の作品2点である。

[2000年JID賞入賞作品]

〈2000年JID賞入賞作品リスト〉

○大賞：該当作品なし

○インテリアスペース部門

部門賞：ザ・フォーラム

d；藤森照信＋葭内博史・桑原裕彰・村松克己・小平純子（㈱竹中工務店設計部）

部門賞：スミレアオイハウスSUMIREAOI HOUSE

d；小泉 誠

部門賞：広島西消防署及び福島コミュニティ消防センター

d；山本理顕・迫 慶一郎・堀智絵子・中佐昭夫・安田朋子・江口敏和・川口有子（山本理顕設計工場）

部門賞：MAYUMIYAの工房

d；久保清一＋森田真由美＋香川眞二

○インテリアプロダクト部門

奨励賞：金属溶射による照明器具

d；本澤和雄（㈱ハロデザイン研究所）

奨励賞：i.BED

d；町田 光（㈱ファニコンインターナショナル）

○インテリア研究・著作・業績部門

部門賞：ライフワークとしての椅子のデザイン

d；井上 昇（㈱いのうえアソシエーツ）

○学生賞部門

部門賞：BOW·knockdown furniture

d；田川理恵（愛知県立芸術大学 大学院 美術研究科）

部門賞：風を観る場所 wind·tradition·place

d；今村公美（愛知県立芸術大学 大学院 美術研究科）

〈各賞の講評〉

○インテリアスペース部門

部門賞の4作品はいずれも個性豊かな力作揃いである。

・「広島西消防署及び福島コミュニティ消防センター」
白の鉄骨で組まれた構造体を軽やかにガラスルーバーで囲み、消防のための活動を内外に積極的を見せている。署内が一望できる見学テラスや展示ロビーには誰でも訪れることができ、今までの消防署のイメージを払拭して、地域に開放された明るく親しみやすいスペースづくりに成功している。

・「ザ・フォーラム」

リゾート地にある芸術家、文化人等のフォーラムメンバーのための集会室である。人々を包み込む巨大な竹籠は胎内のような安らぎをもたらし、木炭のヴォールト空間等の野性的な自然素材による手作りの心地良さは、インテリアデザインの根元的な提案として注目される。

・「スミレアオイハウス」

1952年に建てられた建築家・増沢洵氏の「最小限住宅」、その柱・梁などのフレームを活かした住まいづくりである。限られたスペースに住むための、モノを極力整理したシンプルな暮らし、個室を持たない家族のつながり等、生き方そのものに及ぶ新しい住まいへの挑戦である。

・「MAYUMIYAの工房」

田畑を見下ろす郊外に建てられた工芸作家の工房である。集成材の方杖ラーメンと金属のテンションフレームによる大架構は室内にその美しい構造を見せ、柱のないダイナミックな空間を構成している。木材の暗色に竹格子や土壁が映え、地域に根ざした新しい民家タイプとして好感が持てる。

○インテリアプロダクト部門

部門賞には着眼点は素晴らしいものの完成度がいま一步と、2作品が奨励賞を受けた。

・「金属溶射による照明」

金属溶射という処理技術を照明器具の表層に応用し、多様な空間に適応する光源を見せないタイプの、シンプルでシャープな形態を展開している。

・「アイ・ベッド」

電動のリクライニングベッドであるが、在宅の軽度な介護の必要な人々を対象にしている。全体が美しい上に「畳に敷布団」的な日本固有の寝心地にこだわりながら、その上両側に木製の縁台を付ける等、ベッドに新しい機能をもたらした革新的なデザインである。

○インテリア研究・著作・業績部門

部門賞には、長年に亘る業績として下記が選ばれた。

・「ライフワークとしての椅子のデザイン」

オフィスチェアは多くの人々の働く環境を支える重要な分野でありながら、一見地味な形態であるため、評価されにくい。しかも厳しい業界の中であって、単に形態

のみならず、発明的なアイデアやリサイクル性の追求等、一つ一つ積み重ねた、いぶし銀の様な仕事を評価したい。また近年椅子塾を開き、若い人々と共に椅子のデザインに取り組む姿勢も評価された。

○学生賞部門

部門賞を受けた2点は、いずれも大学院の修了制作として優れたものである。

・「Bow-Knockdown Furniture」

自分で組み立てられるシナベニヤの小椅子。若い人達の生活形態に沿った発想が楽しい。パッケージまで考えられている。

・「風を観る場所」

風という、古来人々が生活に取り入れてきた身近な自然現象に注目しての提案である。単に視覚だけではなく、このような視点は街づくり・建物・インテリアのデザインにも必要であろう。

〈ゲスト審査員の講評〉

小嶋一浩氏（シーラカンズアンドアソシエイツ）

JID賞は、いろいろなジャンルのいろいろな対象に対して与えられる賞であることが大きな特徴だと思う。いろいろある建築の賞とはそこが違う。今回ゲスト審査委員に指名されて、こうしたなかで審査することの難しさを体験した。エントリー作品に込められたファーストプライオリティは各々違った視点や基準に立っているのだ。「建築」になっているかどうかという私たち建築家の共有する「暗黙の前提」など通用するわけもない。この賞の「大賞」は選びにくいということがよくわかった。異なるものを比較することになるから、「圧倒的」でないものは結局部門賞に落ちてしまう。「圧倒的」とはどういうことだろう。完成度でもデザインの密度でもなく、「デザインを通してこんなことができるんだ」という、それを知ってしまった後では、いままでモノの見方がかわるようなものが求められているのかもしれない。

それにしても建築作品のエントリーにくらべていわゆる「インテリア」や「家具」などのエントリーが少ないのはどうしてだろう。私自身はインテリアや家具に感動させられることが多いから不思議である。これはインテリアデザイナーよりも建築家のほうが社会的な事情などで「賞」にこだわるからなのか（公共建築のプロポーザル等では受賞歴が問われることがある）、そもそもインテリアデザイナーは欲がないからなのか？事情はJID賞だけではなく、インテリアプランニング賞でも似ているように思う。

それにしても、「自分にできないことが世の中にいっぱいあるんだな」ということを痛感させられる審査体験であった。世の中にすごいことをやっている人がいっぱいいることを知ってうれしかった。

2 JID賞展

「2000年JID賞展」は2001年1月5日?1月16日の間、新宿のパークタワー内OZONEの6F、リビングギャラリーで開催された。インテリアスペースの4作品はパネルで展示されたが、プロダクト部門のベッドや照明、及びインテリア研究・著作・業績部門のオフィスチェアは実物も出品され、又、学生部門もパネルと試作品のチェアが並んだ。これ等のレベルの高い、しかもキラリと光るもののある作品群が岩倉氏の会場構成と相まって、立派な展覧会となり好評であった。入場者総数は1616名。

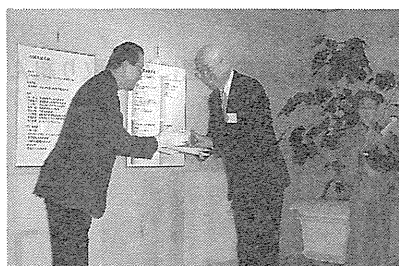
3 JID賞贈賞式・パーティー

贈賞式は、2001年1月11日の19時から受賞者を招待して同ギャラリーで行われた。森谷氏の司会により大野が入賞作品の報告を行い、木村理事長より各受賞者にトロフィーが手渡された。トロフィーは清水忠男氏と千葉大学学生による手作りのものである。贈賞式の後、ワインを片手に和やかな雰囲気の中で、受賞者より各自の作品について説明を聞くことが出来た。パーティーには横江・村口氏の企画協力を得て行われ、受賞者を含め約80名が参加した。

4 JID賞の今後

JID賞は毎年少しずつ変化している。特に昨年からは学生賞が加わり、しかもOZONEでJID賞展が行われるようになった事は特筆すべき点である。また今年度からゲスト審査員も加わり、JIDが社会に対して開かれて行く1つのステップになると思われる。選考委員会そのものは、今までJID賞を選考する役割のみであったのに加えて「JID賞展」を行うことは、正直なところなかなかハードである。今回も連日のギャラリー当番や贈賞式についても、白石氏をまとめ役に関東事業支部やユースの方々の協力が得られたことを感謝している。

これだけ多くのJIDメンバーのエネルギーを傾けている「JID賞」に協会員の応募が少ないのは残念である。次回のJID賞には良い作品の推薦を含めて、是非多くのJIDメンバーの参加を期待したい。



JID賞2000授賞式



OZONE
デザインギャラリー
展示会場

「総合的学習の時間」を活用して、インテリア教育を！
- すでにNIFが実施を、JIDも対応を -

教育研究委員会Aグループ委員長 加藤 力

『総合的学習の時間』をご存じでしょうか？

これは、今年の4月から小中学校で取り入れられる教科横断的な、新しい学習形態のことである。

子供達に「自ら問題を見出し、自ら考え、学び、判断する。そうした主体的に問題を解決する能力を養う」ことを目的とした全く新しい授業の試みである。授業の内容については、それぞれの事情を勘案して、各学校、各学年あるいは、各地域等にまかされている。

昨年、NIF（社／日本インテリアファブリックス協会）が、全国に先駆けて、この総合的学習の時間を活用すべく、東京都目黒区の2つの中学校において、実験的に「インテリア体験学習」に果敢に挑戦。大きな注目をあつめた。

この事情や経緯、成果等については、先のジャパンテックス2001（2／1～4）での、学校教育ブースで発表。NIFの行ったこの「インテリア体験学習」試みは、中学生に自分達の学ぶ教室を使って、自分達で選んだ壁紙、カーテン等を実際に自分達の手と身体を使って仕立て、施工。この体験を通じて、インテリアへの職業的共感、あるいは身じかな生活環境への関心を高めようとした、きわめて興味深い試みであった。

NIFはこの「インテリア体験学習」にたいし、テキスト、教材、資料の作成や提供、さらに講師の派遣など全面的支援を行ったと言うのが、あらましである。

言うまでもなくインテリアとは、生活者が自分の暮らしと生活を自分自身で考え決め、そのための生活空間を作り上げることが、基本です。

戦後50年余、まだ、日本にはインテリアの概念は本当の意味で、一般の中で根つき、定着したとは言いがたいところがあります。この状況のなかで、インテリアデザイナーは自らの専門的知識と技術をどのように社会に役立てようとするのか？

教育研究委員会Aグループはこの課題に対し取り組んでいきたいと、考えます。

多くの皆様の知恵と活動を期待いたします。

2001年ニューイヤーズパーティー

本部総務委員会委員長 高川 恵三郎

本年1月25日（木）新宿パークタワー「クラブスクエア」にて、2001年JIDニューイヤーズパーティーが開催された。新世紀にはいり記念すべきパーティーとして、



経済産業省デザイン政策チーム長 中山 泰様のご来賓挨拶

総勢80名を超える参加者があり、ご来賓様、賛助会員様とJID会員の懇親を深めることができた。木村戦太郎JID理事長の主催者挨拶からはじまり、経済産業省デザイン政策チーム長の中山 泰様よりデザイン政策に関するご祝辞をいただいた。ひきつづき、デザイン功労賞を受賞された長岡貞夫元JID理事長からの喜びのスピーチの後、ご来賓様、賛助会員様を代表して、株式会社イヨベ工芸社社長五百部喜作様の活気ある乾杯の音頭により、歓談にはいった。歓談中、新入賛助会員、新入会員、ユース会員の方々より、JIDへの抱負を述べていただき、会場が盛り上がったところで、阪井良種副理事長の閉会の挨拶で滞りなくパーティーが終了した。

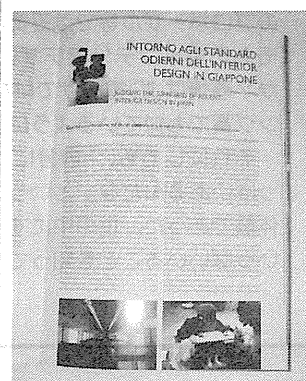
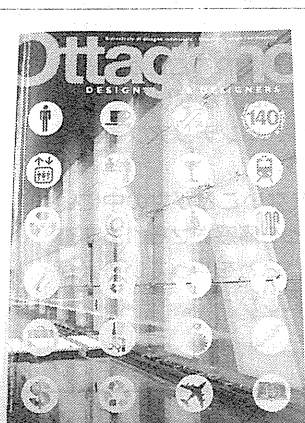
国際交流委員会報告

JIDの海外紹介—イタリアのデザイン誌「OTTAGONO」

国際委員長 藤村盛造

イタリアデザイン誌OTTAGONO140号（10／11月号2000年）に最近の日本のインテリアデザインについての記事掲載を依頼され、JID賞選考委員会にお願いし、清水忠男氏に寄稿して頂いた。

紹介記事はA4版3頁に渡って写真とともに日本インテリアデザイナー協会の活動の一環としてJID賞が印象付けられている。掲載された内容によるとJIDが日本を



代表するインテリアデザイナーによって構成された協会である事、従って選考された数少ないJID賞は極めて評価の高いものでありそのカテゴリーについては三分野に分かれていることなどが清水氏によって説明されている。

ここ1・2年のJID賞のなかから1998年度の大賞に選ばれた吉備高原小学校、インテリアスペース部門賞の「ゼンカイ」ハウス、ショールーム「Le Bain」、1999年度部門賞の「大林組東京本社」、インテリアプロダクト部門賞の「AKI、BIKI、Cantai」奨励賞の「舞妓ミュージアム & カフェ」、や「ひとりひとりにあわせた椅子たち」など、また研究、著作、部門では「NUNO NUNO BOOKS」などが紹介され、同時に学生賞の部門賞なども取り上げ我々JIDが幅広い活動と社会との関わりをもって新世紀に向け始動している事が紹介されている。

ご多忙中、ご執筆にご協力戴いた清水忠男氏にこの誌面をお借りして御礼申し上げます。
国際交流委員会を開く…委員の募集

開催予定日：三月二日金曜日 午後6時半より 事務局にて

議題：IFIとJID meet the Worldの企画

国際委員会では今年、南アフリカで開かれるIFI国際会議に多くの会員を送りたいと思っています。アフリカ大陸がヨーロッパ文明を受け入れて大きく変化してきたことは周知のとおり、滅多に行く事のないアフリカへこの機会に訪れ自然と文明による貴方の感覚をもう一度研ぎ澄まして見ませんか。

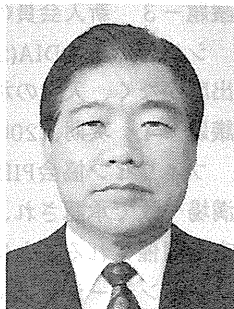
国際委員会では様々な企画と交流を通してJIDの皆様にも広く世界に羽ばたいて戴く会に育てたいと考えています。委員会に参加の委員を募集しております。ご希望の方は事務局までご連絡下さい。

「現代の名工」に

賛助会員イヨベ工芸社の五百部喜作氏が選ばれる

先に、労働省から「現代の名工」が発表されたが、東京・江東区にある株式会社イヨベ工芸社社長の五百部喜作氏が木製家具業界の中からその「現代の名工」選ばれました。

「たくさんのいい製品を見ることが、技術の向上につながる」と、若い社員にいつも居いて聞かせるそうで、衆議院委員会室のイスや、迎賓館のイスの張り替えなど豊富な経験に裏打ちされた言葉だ。「イスを張るだけでなく、一つの完成した製品を作りたい」と木工などの技術も学び、現在では官庁や公共施設、企業などの特注品のほか、自社ブランド製品なども送り出しています。



機械化が進んでも、最後に革や布を張る作業は人の手が省けないのがイス作り。「まず姿がきれいで、座った時に体にフィットする。それも、リラックスする時のイスなのか、仕事のイスなのかで違う」。「いいイスとは」を語らせれば話は尽きません。

IFFI2001国際家具見本市準備委員会メンバー募集！

本部事業委員会 担当理事 阪井良種
委員長 金杉哲男

昨年のIFFT2000は企画推進及び開催期間、会員・賛助会員皆様のご協力を承り、大成功のうちに終了いたしました。ありがとうございました。ワークメンバーの皆様、お疲れ様でした。国際家具振興協会からも評価いただきました。

さて、国際家具見本市は隔年ですが、今年は特別展示になり開催する事になりました。当事業委員会では昨年の経験を生かすべく、IFFT2001国際家具見本市企画準備委員会を設立し、広く委員会メンバーを募集いたします。内容、スケジュール等詳細は未定ですが、今春から実際の企画立案ベースになります。企画はコンペティションスタイルなので、その前に企画準備を行う予定です。

◎締めきり：3月31日

詳しくは本部事務局までお問い合わせください。

APSDA 総会BALI 2000及びバリー国際会議報告

JID代表 中川帛子

開催：2000年10月5日ー7日 於：バリ島／インドネシア 会場：Le Meridien Hotel

総会：2000・10・5

APSDA2000BALI総会は、2000年10月5日、観光地として名高いインドネシアのBali島で開催されました。会場は総会、国際会議ともバリ島の西海岸Tanah Lot地区の海際に面して建つ比較的新しいホテル、ラ・メリディアンが選ばれました。

市街から遠くはなれたこのタナロット地区は、海岸の浮島にある有名なヒンズー寺で知られた信仰心の厚い町で、古くからの観光地からは想像もつかないほど静かな田園地帯です。乾期が終わり、雨季が始まる前だというこの時期は暑さも一段落の最適シーズンとのことでしたが、そこは熱帯のインドネシアですから高温多湿、常夏に変わりはなく、日本の梅雨の終わりの湿度と夏の日差しがありました。

APSDA 2000の総会には12ヶ国、14団体のうち、台湾、韓国、日本（JCD、JID）、マレーシア、インドネシア、フィリピン、シンガポール、香港、インドの9ヶ国、10団体が代表を送り、タイ、オーストラリア、ニュージーランドは欠席でした。一日だけの総会でしたが、今回は議題が多く、和やかなうちにも真剣な議論がかわされ、提案事項すべてについて結論に達し、夕刻5:00、2002年の再開を約束して閉会しました。



総会に出席・右端から木村理事長、中川、JID代表

総会の議題と結論

I 議長国代表の挨拶

II 各国代表による挨拶と報告事項

*JIDは、創立40周年記念事業その他の事業、活動を報告、同席の木村新理事長を紹介した。

III 議題-1: APSDA定款の改定

①第6条 投票権（新設の条文）：“総会において、会員は1投の票権が与えられる。ただしAPSDA創立3会員団体と総会主催会員団体には2票あたえられる。創立会員が主催国になった場合はさらに追加1票が与えられる。”

解説：これまで“representative”代表権と表現していた字句を“Voting right”投票権と改めた。APSDA創立3団体（JCD、韓国、台湾）はすでに総会を主催しているので各3票を持ち、1998年度主催者マレーシアと今回のインドネシアは各2票を持つことになった。この投票権は既得権となり、今後も維持される。SPSDA創立の功績と総会主催の労に対する褒章として追加投票権を与えるという創立3団体の意向が反映された条文の追加である。本来、会員は平等の権利を持つものと考えるのが、権利としての投票権を褒章として授与するというのは、奇妙にも思える新条文の追加であった。JID以外にこれに対して異議を唱えた代表はなく、議題は成立した。しかし依然として疑問は残る。創立団体や総会主催者への敬意の表し方には他にも方法があるのではないだろうか。現在、創立団体は、いわばAPSDAの理事会的機能をはたしているのだから、例えば将来APSDAが理事会組織を持つようになった場合に、永久常任理事団体になる等が考えられる。いずれAPSDAが国際組織として成熟し、常設事務局がスタートした段階で、組織、機能、会長の選任、会員規定などについて、再検討の必要があると考察する。

投票権に差をもたせる方式は、重大決議が必要になった際、投票の偏りや不公平感を生じさせる要因ともなりかねない懸念する。ちなみに現段階の加盟13団体のうち、創立団体と会議主催国の5団体で占める票の数は13票、残りは8団体で8票となる。

*尚、現行第7条：（会長）Chairmanの改定案も提出

されていたが、新事務局設置問題と連動するので今回の訂正案は見送られた。

議題-2 APSDA 常設事務局設置の提案

会員団体の数が増え、会員の情報整理、収集や連絡を継続的に管理する必要が生じているので事務局の設置の提案がなされた。

①全員一致で事務局設置の必要を認めたが、現段階で会費制を設定して、常設事務局を設けるのは時期早々ではとの意見が出され、今回は暫定的、実験的な事務局を開設、業務の内容を下記に限定して始めるとの案が採択された。

*暫定事務局の仕事

- 1) APSDA会員団体の資料のファイル化
- 2) E-Mail、News Letterの発行：（毎月一回）この編集には香港協会が協力を申し出て支持された。
- 3) 会員間の情報の連絡：この暫定事務局をマレーシア協会が支援するとの申し入れが承認された。ただし、マレーシア協会の活動とは一切関わりなく、独立の機関として働ものとする。暫定事務局長にはMs.jane pmnc (MSID) が指名、承認された。

議題-3 新入会員の承認

シンガポールDIA(S)が加盟の意を表していたが代表の出席がなく、入会の承認は見送られた。

議題-4 次期、2002年度APSDA総会開催国の決定

フィリピン協会PHIDが2000年総会開催国に立候補し、満場一致で承認され、次回の総会はフィリピンのマニラ市で開催されることになった。PHIDはビデオで開催地のプレゼンテーションを行った。

閉会 5:00P.m

APSDA Congress 2000 Bary Conference Report 2000・10・6-7

上記、総会に引き続きバリー国際会議が、同じホテルの国際会議場で開催されました。開催に先立ち、ヒンズー教の伝統儀式にのっとり、“WATER OF UNITY”「一致



開会式：「一致の水」の儀式・右端の後姿は木村理事長

の水」が神前に捧げられ、会議の成功と参加者の国を越えた心の一致を願いました。各国代表は、事前に国から水を持参するように依頼されており、日本もペットボトルの那智の水を持参しました。会議のテーマは“HUMANAZIG SPACE”「人間的空間」で、会議は2日間にわたって開催されました。代表国発表者10名、講師12名による講演が行われ、充実した会議でした。会議にはJIDから21名の参加がありました。講演の内容は紙面の都合で割愛いたしますが、会議の事前のレジメ（英語）が事務局に保管されておりますのでご興味のある方はこちらを参照にしてください。

会議のイベントとして、参加者全員がタナロットにある海辺の古い寺院で捧げられたケチャダンスと伝統劇に招待され、エキゾチックな歓迎会でした。閉会式は岩山を切り込んで造られた野外文化センターの野外劇場で行われ、伝統パロンダンスが披露されました。最後は各国の代表が民族衣装を纏って壇上に昇り、お国自慢の歌や捕りを披露。JIDは浴衣を、JCDはお祭り法被を着て登場し、JCDの一人が黒田節を謡いました。最後に総会で採択された“バリー宣言”を発表し、全員で唱和して総会の行事を終了、2002年、フィリピンのマニラ市での再開を誓いあって別れを惜しましました。

バリー宣言を下記にします。宣言文の作成にはAPSDA代表団から5名が選ばれ、私もその一人として参加し共同で作成しました。

We, members of APSDA, inspired by "Tri Hita Karana" of Bali, acknowledge that the balance of "Spirit", "Life" and "Place" contributes to Humanizing Space. Together, we commit to apply this understanding and share it with all.
[私たちAPSDAメンバーは、バリーの生活信条“トリヒタカラナ”に啓示を受け、“精神”と“生”と“空間”の調和が人に優しい空間の実現に寄与するものと考えます。私たちはこの共通の理解に心を傾け、共に分かち合うことを宣言いたします。]



開会式でJIDの出席者を紹介する

ごめんなさい！IDカードの発行が遅れます

本部組織委員会より

現在、会員の皆様がご使用になられているIDカードが、平成13年3月末日を持って期限切れとなります。

本部組織委員会では新規IDカードへの切り替え準備作業を進めておりますが、諸般の事情により作業が遅れております。

発行日も含め、詳しくは後日ご連絡させていただきます。ご理解の程、宜しくお願ひします。

また、IDカードの写真は原則会員名簿に提出のもので進める予定ですが、名簿以外の写真を希望される方は別個ご用意いただくことになります。

詳しい案内は後日いたしますのでご協力お願いいたします。

所轄省庁の名称変更とそれに伴う人事異動

すでにご存知のように通商産業省が経済産業省に変更になりました。

デザイン政策室も人事異動がありましたのでお知らせいたします。

経済産業省製造産業局

機械・生活産業ユニット

デザイン政策チーム チーム長 中山 泰

課長補佐 松前好博

企画一係長 高橋 保

企画二係長 高橋 保（併任）

（事務局）

平成12年度第3回理事会報告

①会議名：平成12年度第3回理事会

②日時：平成12年9月29日（金）13:00～16:30

③場所：JID本部事務局 会議室

東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー8F

④出席者：理事総数15名中（本人出席10名）

（理事長） 木村戦太郎

（副理事長） 阪井良種

（理事） 泉 修二、川上玲子、
吉良ヒロノブ、佐々木恵子、
須長壮太郎、中川帛子、山永耕平、
山本棟子

（委任出席） 秋山修治、関 里繪子、長岡貞夫、
山崎 晶

（欠席） 喜多俊之

（監事） 川上信二、中川千年

⑤議事

峰尾事務局長代理より「理事総数15名中、本人出席10名、委任状出席4名、欠席1名で本理事会は成立した」旨報告。理事長が議長となり議題に入った。

Ⅰ 報告事項

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

◆関東事業支部（長岡理事委任出席のため事務局長代理より報告）

7月20日（木）事業促進委員会「川崎民家園」見学会25名、8月9日（水）組織委員会・関東ユース合同委員会ユース発足以後の報告（入会数150名、入金103名）8月末1次入会締切、2次募集は4月以降、9月ニュース発行。

9月18日（月）「ダニエル」工場見学を実施、事業委員会は「デザイン四方山話」パネラー清水忠男、コーディネーター大野美代子で35名の参加で懇親会を含め盛況であったと報告。

◆中部事業支部（関理事委任出席のため文書にて）

7月12日（水）～17日（月）中部デザイン団体協議会10周年「その歩みとデザイナーたち」出版記念展にJID活動のB1パネル出品、7月29日（土）7月度連絡会「モノ」作り探索第1回有松絞り見学実施、JID賞+α企画、JID中部第2次IT革命、中部学生賞の再考等実施、9月23日（土）9月度連絡会、理事会報告及び第2回「モノ」作り他を実施、今後「名古屋デザインフェスティバル」、デザイン展「デザイナーの目」にJIDより3名が出品の予定その他「パブリックという場のデザイン」JID展への動員協力を依頼と報告。

◆関西事業支部（佐々木）

7月21日（金）木村理事長を囲む懇談会を実施、7月27日（木）～8月8日（火）デザインビジネスプロモーションセンター、オープン記念「記憶のデザイン展」

リサイクルデザインの未来を考えるに協力（会場構成：佐々木、鬼田、石原、中山）、8月3日（木）「ECHO賞」の企業説明会を行い、工場設備の説明及び質疑応答の実施、又8月29日（火）第5回特別部会ECHO賞実行委員会を行い、審査会9月27日賞金授与、企業側は大変喜んでおり明年商品化の予定とのこと。今後他のコンペを予定企業に呼びかけ現在7社の希望がある。

その他平成12年度近畿通産局管内デザイン関連団体等交流会を実施、第10回国際デザインフェスティバル、及び平成12年度アジア太平洋デザイン交流事業等について打合せ。情報部会はECHO誌15号発行、JID NEWSを打合せ、組織部会は学生の会運営と交流事業等について打合せと報告。

◆九州事業支部（山永）

8月26日（土）熊本例会、宮崎地区委員の計画によるJID定期例会の実施、石坂グループのリサイクル事業と御船藍工房にて見学と体験染めを行う。福岡デザインリーグ2000への取り組みとして、自主事業「九州インテリアデザイン展2000-つなぐ」の開催予定、自然、人、素材としての材料を「つなぐ」というテーマで展示の予定10月26～31日。又29日にはシンポジウムを計画、1マリンバ演奏、2基調講演「ウィザーチェア-の歴史と技術」講師山永耕平氏と、ディスカッション及びパーティを予定。その他共同事業として10月6日（金）教育事業「デザインスクールキャラバン」の実施（福岡市南当仁小学校5年生）「動物の教室表示板の制作」を予定と報告。

◆総務・組織委員会（秋山理事委任出席のため事務局長代理より報告）

定款改訂に伴う諸規定の改訂のため関連団体の定款、規定等を収集し、内容の分析を行っている。JID案内パンフレット改訂に伴い、内容の見直しと表紙のデザイン等を検討中。又事務局から会員への効率的な情報発信（FAX一斉同報）方法を検討している。その他所得保障保険について内容調査を行い会員に何らかのメリットがあればインフォメーションしたいと報告。

◆国際委員会（川上）

APSDAの参加申し込み8月14日付けで18名送付、最終8月25日の時点で会員21名となった。OTTAGONO（イタリア雑誌）の企画による、日本のデザインについてはJID選考委員会に委ね、清水忠男氏に原稿と写真を依頼した。又イギリスTV製作会社より取材協力の依頼があったが、選考、人選の期間がなく困難なため回答しなかった。その他JID Meet the worldについてAXISギャラリーに決定、会員に案内した（東京インテリアプランナー協会国際委員会協賛で開き交流をもつ第1回となる）と報告。

◆交流委員会（川上）

APSDA会議とツアー打合せの実施、及びJID Meet the

worldの実施計画（イタリアデザインのキーワードと北欧デザイン）喜多俊之氏、川上玲子氏のスライドと裏話。その他今後の活動予定としてIFIアフリカ会議参加準備と資料収集、2001年デザイン供養、2001年デザイナーズエイド、第2回サロンミーティング等の計画予定と報告。

◆情報委員会—インターネット（吉良）

会員のパソコン保有、インターネット、E-MAIL使用率の把握とJIDホームページへの参加促進、パソコン使用に対するニーズ、セミナー開催の資料収集。又会員のE-MAIL ADDRESSによる連絡網の整備、JIDホームページの組織図等の入れ替え実施、内容のスピーディーな変更が可能となるよう検討する。E-MAIL使用料金 月¥1980、年 ¥23,760 年のみ一括請求。その他ホームページ開設料金JID MAIL ADDRESS所有者は開設手数料のみで以降無料、ホームページリンク許可リンク手数料（年会費）徴収、ホームページ情報（内外）を増やしインテリア関係のメインホームページへ持っていき、JID NEWSへのホームページ情報の提供と加入手続きの掲載等行くと報告。

◆情報委員会—出版（吉良）

INTERIOR DESIGNの発行に關しての編集会議を実施、特集テーマの検討を行い、エコインテリアデザインについての特集を、但しJID活路開拓事業委員会発行（平成12年2月）のECO INTERIOR DESIGN BOOKがあるので、内容のチェックが必要。エコ素材の情報をメーカーから入手フォーマット編集する。地球環境、生態系等についてコストと普及にスポットを、又関連出版物の情報等を紹介することを検討と報告。

◆情報委員会—JIDニュース（吉良）

読みやすく、作りやすく、コストを安くシンプルをモットーに、記事体裁レイアウトの検討を行う。次号のニュース（11・12月、213号）は11月初めに発行を予定と報告。

◆研究・教育委員会A（山崎理事委任出席のため文書にて）
幼児や小学校低学年向け「親と一緒に考えるインテリア造形教育」をテーマに取り組み、わが国における造形教育の実状の調査研究と、国内外の教科書の収集・分析並びに子供の造形・空間認知等に関する資料の収集。8月25日芦屋市立美術館「クルト・ネフ：オモチャデザイン展」の見学と意見交換を行う。今後幼児教育専門家（武庫川女子大）と意見の交換を行い問題点の確認及びJID会員の意見等を収集、広く委員を募り本年度は現状把握と問題点の抽出と方向性の検討等を行うと報告。

◆研究・教育委員会B（須長）

講演会、テーマ「スウェーデンのデザイン教育と今日のデザイン」（3人のデザイナーがスウェーデンから来日）を11月20日（月）にJID本部教育委員会と、北欧建築デザイン協会の主催で行う。協力：在日スウェー

デン大使館 静岡国際家具交流会 NTC（北欧木材協会）パインデザインプロジェクト・デザイナー12、講演の内容を要約し記録に残す。その他若者を対象にした教育活動から、より一般の人々に対象を広げていくと報告。

◆研究・教育委員会C（山本）

9月7日（木）第2回委員会で活動内容について活発な討論を行い、福祉施設や福祉用品、あるいは介護保険適用のリフォーム等の現実問題について討論、今後福祉について考えつつより人間的なところから活動内容を検討していく、又「ユニバーサルデザイン展2001 OZONE」に協力するため、提案1「ヒューマニゼーションデザイン21—JID会員によるユニバーサルデザイン」。提案2「私が見つけたユニバーサルデザイン」。提案3「生活者からユニバーサルデザインへの提言」を前向きに検討していると報告。

◆デザイン保護委員会（泉）

日本デザイン団体協議会による「デザイン著作権について意識調査」の準備を行っており、著作権法学者、工業所有権法学者の会員、関係弁護士、大学教授等300名に対して10月下旬アンケートを実施し、来年2～3月頃に発表の予定と報告。

◆事業委員会（阪井）

7月27日（木）企画提案を行う行政機関等の候補先検討、IFFT2000の企画提案報告を行う。8月24日（木）1. プロポーザル企画内容の考案—賛助会員と会員メンバーをつなぐ、賛助会員とユースの会をつなぐ（賛助会員企業への研修ツアー）等の企画、又JIDとIFFT、JAPANTECH等とのジョイントコンベンツの企画。2. IFFTのメンバー募集を行う。尚JAPANTECHの提案は一つの団体に出すことはないと報告。

◆会員プロモーション委員会（中川）

会員ワーク集及び名簿の企画、ワーク集（作品ファイル）の後半に会員全員の顔写真付のデータベースを載せる。別冊の名簿はなるべく小さくして利便性を重視する等検討しており、11月上旬にワーク集掲載募集と名簿案内を送付する予定で、一人でも多くの会員に参加を希望。タイトルは「インテリアデザイナーの仕事」を続けると報告。

◆選考委員会（泉）

イタリアの雑誌Ottogono「Focus on」の筆者の選考を行い、日本のインテリアデザインの紹介であるため、近年のJID賞をふまえての記事とし、前選考委員長の清水忠男氏に依頼。2000年JID賞の審査につき8月31日で一般公募を締切59点の応募があった。今後10月11日に2次審査を、11月上旬に外部審査員を加え最終審査を行う予定と報告。

(2) 平成12年度収支状況報告（8月末現在）

平成12年度収支（8月末）報告について事務局長代理より報告。

(3) 役員の日本標準産業分類訂正について

事務局長代理より報告が行われた。

(4) 日本デザイン団体協議会事務局長会議報告

平成12年8月24日(社)日本サインデザイン協会において、事務局長会議が行われ、種々討議がなされた。

(5) その他

- ・通商産業省に平成12年度公益法人概況調査を提出。
- ・中央省庁の改革に伴う公益法人の定款・寄付行為の変更について大臣名の変更「通商産業大臣」→「経済産業大臣」平成13年1月。
- ・JID NEWS 11・12月号(213号)11月初め発行予定。
- ・次回理事会開催予定('00年度第4回)

平成12年11月27日(月)

議長は報告事項について了承を求め、理事会はこれを了承した。

II 議案

第1号議案「APSDA2000インドネシア-バリ会議」

派遣人事承認の件

標記の総会、及び国際会議の代表として木村理事長、中川帛子理事を派遣することを承認された。

第2号議案 協賛後援名義承認の件(8件)

事務局長代理が下記8件について説明した。議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

◎大川総合インテリア展「華胥の夢博」

2000年10月6日(金)～10月8日(日)

主催 財団法人大川総合インテリア産業振興センター

◎「第6回木造建築物に関する研究会」

2000年10月13日(金)

主催 日本集成材工業協同組合

◎「JAPANTECH2000」第20回インテリアファブリックスショー

2001年2月1日(木)～4日(日)

主催 (株)日本インテリアファブリックス協会

◎「引出し21展ー引出せば21世紀が見えてくるー」

2000年11月9日(木)～11月28日(火)

主催 (株)リビング・デザインセンター

◎「第51回東京インターナショナル・ギフト・ショー春2001」

2001年2月21日(水)～2月23日(金)

主催 (株)ビジネスガイド社

◎「建築・建材展 2001」

2001年3月6日(火)～3月9日(金)

主催 日本経済新聞社

◎「ライティング・フェア2001」(第5回国際照明総合展)

2001年3月6日(火)～3月9日(金)

主催 (株)日本照明器具工業会、日本経済新聞社

◎「JAPAN SHOP 2001」(第30回店舗総合見本市)

2001年3月6日(火)～3月9日(金)

主催 (財)店舗システム協会、日本経済新聞社

第3号議案 会員入退会承認の件(7件)

事務局長代理が下記7件について説明した。議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

正会員・入会(3件)

楠美 靖(関西)推薦人:清家 淳一・安藤 真吾

梁瀬 彦市(関東)推薦人:山下 博之・峰尾 武

上山 佳宏(関東)推薦人:浅野 盛治・峰尾 武

正会員・退会(4件)

東島 尚賢(九州) 三上 英夫(関東)

藤田 真二(中部) 上田 隆則(関西)

第4号議案 議事録署名人選任の件

議長は、吉良ヒロノブ、佐々木恵子両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

【 平成12年度第4回理事会報告 】

①会議名:平成12年度第4回理事会

②日時:平成12年11月27日(月)13:30～16:30

③場所:JID本部事務局 会議室

東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー8F

④出席:理事総数15名中(本人出席13名)

(理事長) 木村戦太郎

(副理事長) 阪井良種、山崎 晶

(理事) 秋山修治、泉 修二、川上玲子、
吉良ヒロノブ、佐々木恵子、
関 里繪子、中川帛子、長岡貞夫、
山永耕平、山本棟子

(委任出席) 喜多俊之、須長壮太郎、

(監事) 川上信二、中川千年

⑤議事

峰尾事務局長代理より「理事総数15名中、本人出席13名、委任状出席2名で本理事会は成立した。」旨報告。理事長が議長となり議題に入った。

I 報告事項

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

◆関東事業支部(長岡)

本部・関東合同情報委員会を10月2日、11月6日に開催、情報委員会が「初めてのパソコンセミナー」第1回、第2回を実施、事業推進委員会が「インテリアアート5人展」を11月10日～16日に実施。組織委員会・関東ユース合同委員会「セミナー・光と色」の準備会を開催。また事業委員会はセミナー「ディズニールランド建築裏話」を11月16日に開催多くの参加者があり盛況であったと報告。

◆中部事業支部(関)

9月9日、9月度連絡会と宇賀敏夫氏による「ポーランド旅行」のスライド報告。10月7日(土)～9日(月)名古屋デザインフェスティバル、デザイン展「デザイナーの目」にJIDより金田、中島、安藤の3氏がパネル参加。10月21日(土)10月度連絡会と渡辺まさみ会員の「ドビー織りの作品展示とレクチャー」。その他内田繁展「フラグメント」に協力。11月5日

(日) 共催事業「中部から発信するインテリアコンセプト」=紙、木、土、エコロジー=にJID中田重克会員を迎え実施と報告。

◆関西事業支部 (佐々木、山崎)

9月27日第3回研究委員会トランスポーテーションへの提案及び環境問題について「環境憲章」の成立には他団体にも呼び掛ける。9月27日「エコ賞」決定、第1回「エコ賞」表彰式及び第2回「エコ賞」企業説明会を実施、企業10社、会員20名が参加(SAKURAギャラリー)。その他本部委員会(関西事業支部)の担当確認。総務・組織:山本、国際・交流:鈴木、情報:安藤、教育・研究:鬼田、事業:木谷。USDO(大阪デザイン団体連合)<イイモノ・コト・21世紀に伝えたい12月2日~5日への参加呼び掛け等報告。

◆九州事業支部 (山永)

FUKUOKAデザインリーグ2000デザインスクールキャラバン10月26日~30日に飯田一博会員と学生6名の協力により無事終了。同じくデザインリーグ2000デザインの玉手箱に山永会員が参加、40センチの箱の空間に各デザイナーが表現したものを期間中ソラリアプラザで展示。その他自主事業インテリアデザイン展JID九州2000テーマ「つなぐ」の開催10月26日~30日。シンポジウム「デザインと心をつなぐ」を松下電工ショールームで10月29日に実施、基調講演「ウインザーチェアのルーツを探る」山永耕平とマリンバ演奏及びディスカッションが行われたと報告。

◆総務・組織委員会 (秋山)

2001年NEW YEAR PARTYについて検討、第5回理事会と調整、定款改訂に伴う諸規定の見直しについて検討、前年度定款改訂委員会が作成した会員規定(案)、選挙規定(案)等を新定款と照らし合わせ精査し、それぞれの問題点を抽出し検討を進める。その他会員のメリットについて、福利厚生施設のアウトソーシングを実施する。又所得保障保険等を検討しメリットがあれば会員に紹介すると報告。

◆交流委員会 (川上)

サロンミーティングJID meet the World (第1回) 9月29日(金)実施65名が参加、東京インテリアプランナー協会及びJID関東ユースの協力もあり、盛況であった。APSDA国際会議とバリ島ツアーに22名が参加した。その他年内にデザイナーズフェスタ12月8日(金)を予定と報告。

◆情報委員会—インターネット (吉良)

ホームページリンク許可にリンク手数料を徴収、ホームページの情報(内外)を増やしインテリア関係のメインホームページへ持っていく。又会員Emailアンケート集計報告とアドレス確認。その他現在JIDホームページの手直しを行いつつあり、トビックス、イベント等についての入れ替えをするようにしたい。パソコンセミナーについては情報を提供し支部で実施と報告。

告。

◆情報委員会—出版 (吉良)

INTERIOR DESIGNの出版に向けて、原稿依頼の確認を進行中とあるが、現段階では1月発行は中止し、次回理事会にコンセプトを提出、その後制作に移行すると報告。

◆情報委員会—JIDニュース (吉良)

11~12月(213号)10月31日発行、次号は2001年1~2月(214号)3月中旬発行予定と報告。

◆教育・研究委員会A (山崎)

子供向け造形教育に関する国内外の教科書収集、分析、子供の造形空間認知等に関する資料収集および専門家と意見交換(武庫川女子大、飛鳥教授、山崎教授)今後JID会員等から意見の収集と多くの人々に広く参加してもらう。又教科書でなく絵本的なものとすると報告。

◆教育・研究委員会B (須長理事委任出席のため文書にて)

教育研究内容を情報媒体を通して発信する:(仮)日常生活周辺におけるインテリア現象・言葉等をシーンとして抽出して提起する。その他のテーマ等について各自検討する。又11月20日(月)スウェーデンのデザイン教育と今日のデザイン」を実施、100名以上の参加があり盛況で内容の高いものであったと報告。

◆教育・研究委員会C (山本)

リビングデザインセンターOZONEで2001年1月18日より開催される「ユニバーサルデザイン展2001」に3案提出し、内2案が通り詳細を検討中。

1. 「Humanizing Design21~JID会員によるユニバーサルデザイン展」で会員の参加を募っている(2月1日~2月20日)。

2. フォーラム「プロへのヒント、私の求めるユニバーサルデザイン」を登録ユニバーサルデザイン研究会が企画したもので、千葉大清水忠男教授がコーディネーターとなって行われる予定と報告(2月1日開催)。

◆デザイン保護委員会 (泉)

10月24日(火)にデザイン保護研究会が(株)日本ジュウリーデザイナー協会で行われグラフィックデザイナーの著作権裁判勝訴の報告と、今後実施するアンケート案が提出され討議が行われ、その内容を盛り込んだアンケート用紙を11月末までに、日本ジュウリーデザイナー協会が主体となって作成することになったと報告。

◆事業委員会 (阪井)

IFFT2000が有明ビックサイトで開催され、特別展示に参加盛況の内に無事終了したと報告。

◆会員プロモーション委員会 (中川)

会員ワーク集と名簿の募集を会員に送付、現在原稿の戻りを待っている状況であり、予算等の詰めを行っていると報告。

◆選考委員会 (泉)

10月11日に第2回審査を行い、絞り込んだ作品の現地調査を実施し、1. インテリアスペース部門—部門賞4点、2. インテリアプロダクト部門—奨励賞2点、3. 研究・著作部門—1点、4. 学生部門—部門賞2点、の計9点を決定した。11月9日に入賞者に通知し11月10日メディアリリース第1報を配布した。今後2001年1月5日(木)～16日(火)までOZONEデザインギャラリーに展示、1月11日(木)に贈賞式を行うと報告。

(2) 平成12年度収支状況報告(9月末日現在)

平成12年度収支(9月末)報告について事務局長代理より報告。

(3) 平成12年度公益法人概況調査提出報告

平成12年度公益法人概況調査書を、10月5日に提出した旨事務局長代理より報告。

(4) 平成12年度中間監査報告

平成12年度中間監査を10月27日に実施した旨、川上信二、中川千年両監事より報告

(5) APSDA 2000インドネシア・バリ会議報告

APSDA2000バリ総会が10月5日現地で行われ、当協会から18名が参加した。会議の状況と報告が行われ、今回は2002年フィリッピンのマニラ市で開催されることになった、尚詳細は次号のJIDニュース等で報告。

(6) その他

- ・業務監査(予定)に関して12月6日(水)実施予定
- ・JID NEWS 1・2月号 発行予定(3月予定)
- ・次回理事会開催予定('00年度5回)

平成13年1月25日(木) 13:30～16:30

議長は報告事項について了承を求め、理事会はこれを了承した。

II 議案

第1号議案 協賛後援名義承認の件(6件)

事務局長代理が下記6件について説明した。議長は承

認を諮り、いずれも異議なく承認された。

◎「ユニバーサルデザイン展2001」

2001年1月18日(木)～2月20日(火)

主催 (株)リビング・デザインセンター

◎「デザインフォーラム2000イン湯河原」

2000年11月10日(金)～11日(土)

主催 (社)かながわデザイン機構

◎世界お茶まつり「新しいO-CHAスタイル展」

2001年10月5日(金)～8日(月)

主催 世界お茶まつり実行委員会

◎「地球環境・建築憲章」

主催 (社)日本建築学会、(社)日本建築士会連合会、(社)日

本建築士事務所協会連合会、(社)日本建築家協会、(社)建

築業協会

◎第25回大阪インターナショナル・ギフト・ショー・春2001

2001年3月13日(火)～15日(木)

主催 ビジネスガイド社

◎「木になる徳島」東京展

2001年2月13日～15日

主催 (株)アワード、支援 徳島市

第2号議案 会員入退会承認の件(3件)

事務局長代理が下記3件について説明した。議長は承認を諮り、酒井忍氏を除く2名が承認された。酒井氏に関しては作品資料の再提出を求め、次回の理事会で再審議することとなった。

正会員・入会(3件)

桜井 良樹(関東) 推薦人:青木 猛・菅原孝則

井出 昭子(関東) 推薦人:安武満智子・吉良ヒロノブ

酒井 忍(関東) 推薦人:山岸 柁史・道明三千代

第3号議案 議事録署名人選任の件

議長は、関 里繪子、中川帛子両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

[新入会員の紹介]

●賛助会員

富士ゼロックスオフィスサプライ株式会社 ワークステージ営業部 会員番号 3167	担当者:マネージャー 中根 浩二 住 所:東京都千代田区神田駿河台2-5-12 〒101-8314 TEL 03-3295-6337 FAX 03-3295-6557 紹介者:事務局
---	--

[会員の異動]

石 川 尚 (関東 P50)	事務所移転	Ishi & F company 〒222-0021 横浜市港北区篠原北1-1-15-103 TEL 045-430-5646 FAX 045-430-5645 イシカワデザイン事務所 〒223-0054 横浜市港北区綱島台20-2-412 TEL 045-543-9175 FAX 045-543-9163
---------------------------	--------------	--

『情報委員会の21世紀』

関東事業支部 情報委員長 鳥井 貴正

ミレニアム期をむかえ、関東事業支部も大きく様変わりしました。私たちも今年度から「情報委員会」に名称が変わり、新しい動きが始まりました。

そして社会的にもIT推進の気運が高まる中、21世紀の情報委員会としてはどうあるべきか？が問われる年になったということでもあります。

そんな中で、委員会のテーマである「情報」は、現代社会では間違いなくインターネットを中心に発展しています。私たちJIDにおいても、インターネット環境をもっともっと充実していかなければなりません。昨年は、JIDページの中に前期の関東国際委員会（須長壮太郎委員長）監修による「日常のインテリアシーン」というテーマのページを立ち上げました。このページは全世界の人々に日本人の生活のワンシーンを知ってもらい、これを見た外国の方々からも彼らの生活シーンを紹介してもらおう、という趣旨で、出来たものです。（JIDホームページの「JIDの国際活動」のコーナーからアクセス出来ます）このように外部に情報発信するような企画ページは、今後さらに充実してゆきたいと考えています。

また、会員間の情報交換もなるべく早くネット化してゆきたいと考えています。そのためには、一人でも多くの会員の皆様にネット環境を整えていただきたいと思います。そこで、昨年これからパソコン環境を整えたいとお考えの方のために「超初心者のためのパソコンとインターネットセミナー」のトライアル版を実施いたしました。これは委員会メンバーを講師として、ご要望をお寄せいただいた方数名にお集まりいただき、実験的に行ったものですが、大変好評をいただくことが出来ました。これを受けて今年は広く皆様にご参加いただけるようなものにしたいと考えています。ご案内が届きましたらぜひご参加下さい。

また、情報委員会は、さらに多くの皆様の情報と参加を求めています。参加ご希望の方は、本部事務局までお問い合わせ下さい。



一タジマ ショールーム会議室にて行われた 佐藤健一氏の講演会に寄せてー 『ディズニーランド裏話』

関東事業支部員・本部教育研究委員 岡部 文絵

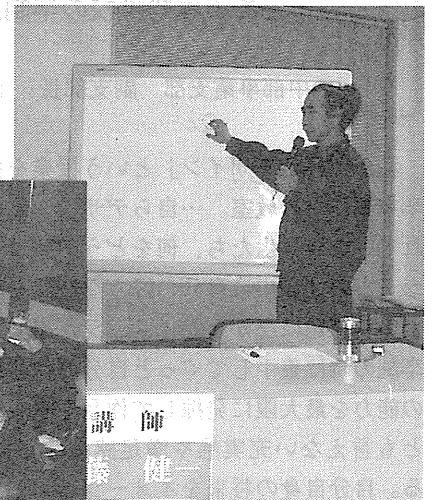
佐藤さんから、ディズニーランド立上げ時の面白い話が伺えると聞いた時点からこの日を楽しみにしていました。東京ディズニーランドといえば、数あるエンターテインメント施設の中で、最も成功し、最も人気があります。JIDの会員でなくても、一般の人でも学生でも、その裏話が聞けるとなったら是非聞きたいというところですね。私が教鞭をとっているインテリアの専門学校の生徒にもユース会員が数名いて、その他の生徒にも紹介したところ、たちまち参加者が増えました。

アメリカのディズニーランドや東京ディズニーランドの普段私達が見られない裏の部分や、気が付かないような小さなサインなどのスライドをたくさん見せてもらいながら、佐藤さんのユーモア溢れるお話に、2時間という時間は短かったです。

私にとって、最も関心が深かったのは、デザインや仕上げる品質に妥協を許さない世界の一流企業、ディズニーの姿勢です。本当に良いものを作るんだという熱気が、スタッフ一人一人に浸透し、その仕事が終わった今でも、関わったデザイナーやスタッフは、良い仕事をしたという幸福感が持てる事です。

商業施設の仕事をする場合、予算と時間に縛られ、なかなか良い仕事をさせてもらったという幸福感までは味わえないのが現実です。その点、佐藤さんはデザイナーとして仕事に恵まれた方だと思います。

我々デザイナーとしては、ディズニーのように豊富な予算と高いデザインクオリティーを求めるクライアントと仕事をし、デザイナー冥利に尽きる、などと幸福な思いをしたいものです。



講師
佐藤 健一

新年をむかえて

JID中部事業支部 支部長 安藤 清

新世紀も早々に時をさざみはじめました。丁度100年前世紀末から新世紀にかけて活躍した、チャールズ・レニー・マッキントッシュのデザイングループ「ザ・フォー（4人組）のグラスゴースタイル展」が三重県立美術館で開催（JID後援）され、新年1月例会日に大阪大学藤田先生の美術後援会もあり、館より入場券のご好意を得、大雪の中スコットランドの寒さを体感しつつ偉大さをあらためて考え見ることができました。95年IFI名古屋のプレイベントでグラスゴーを訪れ作品を集中して見たこともあり、今回の展覧会ではあらためて本物のデザインの永遠性を感じました。丁度ガラスボックスのインテリアに現代の装飾性をテーマのプロジェクトの渦中でもあり大きな示唆が得られました。我々が100年後の評価に耐えうるデザインをしているか？工業化したインテリア部材の進む中にあってもインダストリアルエレガンスを現代の感性でしなさいとマッキントッシュさんに教えられたようでした。

協会も個性集団がデザインの競合にシフトを向け研鑽しあえる会にすべきであり、造形者の原点にもどることを再認識する年はじめです。

つぶやき
とある専門学校の卒制風景

JID中部事業支部 副支部長 木辺 智子

私が「住宅デザイン」という授業を担当する学校での卒業製作中の教室。…自らデザインするという事に慣れていない学生たち、何をどうデザインしてよいのか分からない「自由に自分の好きな空間をデザインしてみよう」という課題になかなかイメージが出てこない。…と私の卒制の時は集中してぐっと自分の作品に入り込む、自分の能力を最大限に発揮して作品を完成させる。そんな何とも言えない充実感や満足感を感じたことを覚えている。自分自身の将来をイメージしマッキントッシュのように家具のデザインから建築まで携わるようなデザイナーになりたいと考えていた。（現在はどうか？は別と

して…、）100%の自信を持って、貧欲な学生だったと思う。バブル景気が時代がよかったのか私の場合デザイン事務所に潜り込めたからよかったけれど、今の学生さんたちの仕事先がなかなか見つからない現状で将来に夢を持つのは難しいのか？でもガッツ

がないというか覇気がないというかもっとパワフルであって欲しいなと思うのはどうなのだろう？

3週間あまりの製作日程をなんとなくダラダラ過ごしているように見える。…私もエンジンがかかるのが遅かったなと思いながら付き合っている。あと5日だんだんあせてきた感じ。睡眠時間が2～3時間とか5時間とかなどなど。そろそろ徹夜組もでてくるかな？何しろ頑張ってる。徹夜を推奨するわけではないけれどぐっとう作品に入り込むには徹夜がいいかなと。…38歳、いまだに徹夜組の私。ちょっと言い訳じみているかな？もうすぐ提出期日がやってくるどんな修羅場が待っているか？

事業部会一年を振り返って

JID中部事業支部 事業部会長 金田 美世

今年度は、衣・食・住の『手仕事』を合言葉に事業部会の企画を転回して来ました。鳴海、有松の宿の『絞り』の約爛豪華な着尺の裏にある気の遠くなる手技。当地のポリエステル現代絞り技術がパリコレに発展して行く様を見聞したり、いかにインテリアに進出するのかの相談を受けたりもしました。第2回は、お酢の博物館『酢の里』を訪れました。（半田市）運河添いに麴蔵、酒蔵、味噌蔵の建ち並ぶ様を見て、関理事の「ああ、懐かしい、富山の故郷と同じ風景」という言葉から、彼の地と表日本を歴史でつなぎ、眼の前を絵とし、デザインしている私でした。



半田市「酢の里」博物館を訪ねて



建築、環境保存のレタチャー、工場見学にては趣蔵内の随所に地震避難時のシェルターの取付のデザインに目を見張り、古い木樋の曲線に一同うなりました。もろみを移す為にそそぎ口をつけたデザインを動物に見立てて、その昔、職人さん達は『きつね』と呼んだそうです。そして酢と美しいデザインは江戸前寿司と姿を変えて研修を終えました。酸っぱい臭いが余りにも心地よく、もちろん帰りは、お寿司で一杯でありました。

又、個人的には、昨秋のハノーファー万博、スイス側アルプスに次ぎ、この一月には、フランス側アルプスとヨーロッパ体験が続き、風景、気候、デザインがからみ合う歴史の重さと新しいスタイルを、ちょっこし見えました。特に日本で無名で当地で有名な、スキーリゾート地についての情報の御入用の方は御一報下さい。リヨン市・及びアルプデュエススキー場（グルノーブルの奥）です。

北陸地方の生活環境思考

JID中部事業支部 北陸部会 坂田 守正

北陸地方は15年ぶりの大雪に見舞われ、温暖化によって近年雪に対する災害の危機意識が薄れ、交通や生活に大きな影響を与えました。

福井県の場合ですと、以前は80センチか1メートル積雪があり、こうした生活風土から生まれた文化が生活の中にしっかりと技術的に根ざしていました。

地球環境を考える前に自分の生活に身近かな問題として捉えてみると、福井のように、まだ、中山間地域とフットパス（小道）のような生態系の破壊されていない「場所環境」が存在しています。

二次林の自然が残る場所（山）では、近年猿が増加して獣害対策に苦慮しています。とりわけ、こうした意味は「人間にとって」という人間中心主義の話ですが、人間も自然の一部という日本的（アジア的）な思考は、江戸時代のリサイクル社会までだったと近年多くの著書に論述されております。「ゆきやこんこん、あられやこんこん」という日本の情緒はすでに死語となり、雪は災害に指定されています。東京も大雪だったようですが雪は災害を招いたのでしょうか。少し降ってくれると嬉しいもので多く降ると生活に支障がきます。

福井地方はコシヒカリという品種を誕生した地域ですが、雪の水分が土を浄化させ、冬の間土が休むことで健康的な土が生きています。そこに育つ農産物も、漁業も自然から享受して美味しい食材が手に入ります。

20世紀の産業社会に加担していたデザインも反省のないうまま21世紀に後始末という形でシックハウスや免疫性の問題に取り組み環境という流行にこぞってシフトしていくのでしょうか。環境という哲学も理念もないまま、しかし大雪になる雪害対策という非分離した矛盾の中に現在があります。環境や自然に手を加え、人工環境をつくる西欧的デザインと異なる共存と共創の場所設計に専念していきたいと思っています。

ECHO賞後日談

関西事業支部 ECHO賞実行副委員長 山崎 晶

JID NEWS前号で紹介いたしました『ECHO賞』はただ今試作・検討中です。最優秀賞の「kinoko」(安藤真吾さん) 優秀賞の「CHAT」(山本紗代子さん) 奨励賞の「Pure & Elegance」(七条健さん) の3作品がまず組の上に。2月1日(木)依頼企業の富士工業本社において試作検討会が開催され上記3作品緒デザイナー、ECHO賞実行委員長清家淳一さん、企業側から福原社長、福原副社長、小川常務らが出席され、用意された試作品をまに熱心にそれぞれの立場から意見を聞かせました。製品として、商品として、合理的な製作方法をデザインのイメージに沿ったものに考えていくという、いつもながらの生みの苦悩の数時間でありましたが、それぞれにある納得の時を迎え、次回の検討会を2月14日(水)と定め、散会しました。

たくさんの宿題をもらったデザイナーはそれでも充分満足顔であったし、企業側とぜひ商品にしようという意気込みを確認しあえたことが大きな収穫でした。まだ各デザインを公表できないのが残念ではありますが……。なお、今回の実績をふまえて、第2回、3回と繋げていきたいと思いますが、すでに2社ほどの企業がエントリーを検討中である由、募集要項の発表を楽しみにお待ち下さい。(02/13)



“JID-ACT kansai”

JID関西事業支部
組織部会部会長 鈴木 儀雄

JID関西事業支部では5年前に“JID関西事業支部・学生の会”を発足させ、デザインを学ぶ学生を中心に若い人々を募り、JID関西事業支部で行うイベントや見学会に参加していただき又、JID会員のオフィス見学、勉強会など幅広く活動してまいりました。

“学生の会”も4年・5年続いて行くと、大学を卒業した若い社会人の会員も増え、“学生の会”というネーミングに少し無理を感じるようになり2000年9月より、新しい組織づくりについて検討を重ねた結果、JID-ACT kansaiと改名することに決定し2001年度より新たに発足することになりました。

JID-ACT kansaiはJID-ACTの会員で会を運営し、JID会員がバックアップする。

JIDが関係するイベントを初め、デザインの研究会・勉強会・見学会、又、企業のコンペにも“JID-ACT”の会員として参加出来る組織を目指しています。

JID会員がこの“JID-ACT”の若い人々をプロのデザイナーに又JID正会員に育てて行かなければならないと考えています。

各事業支部で“JID-ACT”の会を発足させていただければ、それぞれの地域との交流も深まり、全国的な“デザイナーをめざす若い人々の会”となり、将来JIDの発展につながって行くのではないのでしょうか。



会員募集のパンフレット

事業所見学会に参加した学生の会、会員

天領日田の長福寺

大分地区委員長 岩崎 悟

待ちに待った「21世紀」の訪れを忘れてしまうほど忙しい、1月20日午後1時30分より大分地区例会を日田市で行なう事になりました。今年度より地区委員長になり初めての例会で進行が何もわからず、他の日田地区会員に相談しようと思い連絡したところ、退会者や転勤、休職中等で実質動ける会員は2名だけでした。

開催日の天気は「くもりのち雨」の愚図付いた天気でしたが、盆地である日田地区特有の霧が発生し参加者に変な迷惑を掛けましたが無事に日田インター近くの「IDハウス」集合で行なわれました。

最近の例会は特別な議題は無く、会員相互の親睦を第一に自由な話し合いの場になっています。今回は会員の近況報告の中から「木材の曲げ加工」と日田地区の特産品である「杉の加工品とその歴史」等、通常では中々知りえる事の出来ない情報をとても面白く有意義に聞く事が出来ました。



次の視察は天領日田の象徴である豆田の「大分県指定有形文化財」であり、現在2000体の「ひな人形」を展示している全国的に有名な「草野家住宅」や、広瀬淡窓の生家で、天領時代掛屋をしていた「広瀬家住宅」等、多くの伝統的の家屋が残り、町並みを形成している。一郭に寺域を構える「長福寺」と言う、九州で最も古い浄土真宗寺院堂です。

寛文9年5月(1669)に建立され、本堂も「大分県指定有形文化財」に指定されています。

豆田は明和9年(1777)の大火で灰塵に帰しましたが本堂をはじめ境内の経蔵・常澄明堂は、この大火を免れました。

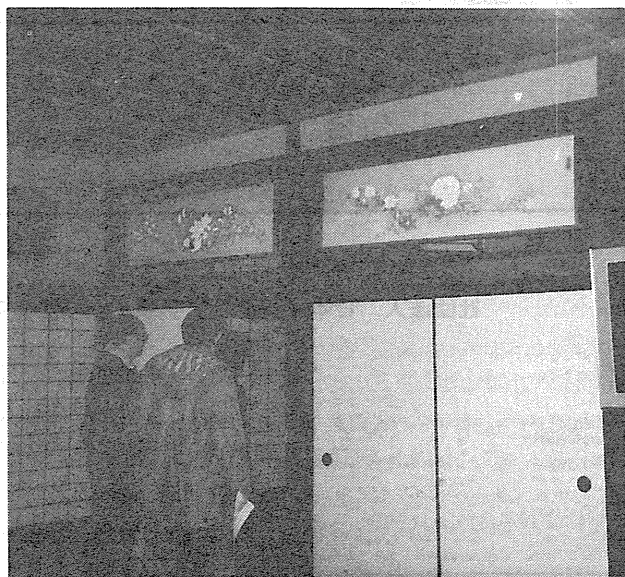


長福寺の諸僧は「広瀬淡窓」と学問を通しての繋がりがあり、京都高倉学寮において、11世宝月は天明2年(1782)に擬講に任じられ、宝月の子、法海は光徳寺(8代)住職になりますが、文政11年(1828)に最高学職の講師に任じられました。このように学問を通じ豆田の人々や高倉学寮に全国から参集した所化に影響を与えたと言われています。

また、宝暦9年(1759)に「長福寺学寮」が造られ、儒学者広瀬淡窓は、寛政元年(1789)8歳の時に長福寺で法幢から詩経の句読を受け、文化2年(1805)24歳の時には、その学寮を借りて塾を開きました。その後「咸宜園^{かんぎえん}」を明いて多くの人々に思想的影響を与えた淡窓は長福寺の諸僧から学問の基礎を学んだそうです。

現御住職の竹内一美氏に内部を案内していただき、色々な興味深い数々の「書・絵画・ステンドグラス」等が数多く展示されていました。

最後に、歴史的建築物の視察は専門ではない為、使用材料しか理解出来ませんでしたが、次々と新製品の開発を慌ただしくしている私は、落ち着きを感じられる一時でした。



【新入会員の紹介】

- 新しく会員になられた方々です。新しい仲間としてよろしくお願いいたします。
- 正会員

会員名及び番号		住 所 及 び 電 話
さくら いよし き 桜井 良樹 会員番号 1188 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	桜井デザイン事務所 神奈川県横浜市西区戸部町5-197 クリオ横浜高島町壱番館505 〒220-0042 TEL・FAX 045-252-9832 同 上 青木 猛・菅原 孝則
い で あき こ 井出 昭子 会員番号 1189 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(株)セルコンテクノス 東京都千代田区内神田1-13-12 〒101-0047 TEL 03-3294-4172 FAX 03-3294-4028 東京都渋谷区代官山町20-6 〒150-0034 TEL・FAX 03-3780-2480 安武 満智子・吉良 ヒロノブ
さか い のぶ 酒井 忍 会員番号 1190 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(株)青南ランド 東京都港区南青山 〒107-0062 TEL 03-3409-9816 FAX 03-3409-9817 東京都目黒区目黒4-17-3-207 〒153-0063 TEL・FAX 03-3791-3441 山岸 証史・道明 三千代
すず き 鈴木 ふじゑ 会員番号 1191 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(有)カン・デザインングオフィス 東京都新宿区新宿1-14-2 ASビル3F 〒160-0022 TEL 03-3225-0560 FAX 03-3225-0838 東京都杉並区和泉2-21-2 クレスト和泉305 〒168-0063 木村 戦太郎・小野 由紀子

2001/2~3

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報（2001年通巻214号） 2001年3月10日発行

発行所／社団法人 日本インテリアデザイナー協会

発行人／木村戦太郎

〒163-1008 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー8F

TEL 03-5322-6560 FAX 03-5322-6559

企画・編集／本部情報委員会 制作／be-one